

2020 年度事業報告書

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日まで
特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会

1. 事業の概況

新型コロナウイルスの感染予防のため、山頂での夏期観測を中止した。夏期事業が主要収入源であったため、NPO の存続も危ぶまれたが、総額が過去最大となる寄付に加えクラウドファンディングによる支援を得て、財源を確保した。山頂では登下山を要しない通年観測を継続し、太郎坊での観測を強化するとともに、新たに御殿場基地での通年観測を開始することができた。また、来年度の夏期観測のための準備を進めることができた。

寄付活動に法人全体で取り組み、その結果各種企業から個人までのべ 249 件、合計 12,364,492 円になった。また、クラウドファンディングは目標額 3,000,000 円に対し、424 名の方からご支援をいただき、6,121,100 円（204%）を達成した。支援者に種々のリターンを行った。

当 NPO による研究活動の資金として、一般財団法人 WNI 気象文化創造センター気象文化大賞およびアジア太平洋地域助成、日本郵便株式会社による年賀寄附金配分事業の支援を受け、太郎坊での大気科学に関する鉛直観測を実施した。なお、次年度の測候所修繕資金として、公益信託大成建設自然・歴史環境基金の支援を受けた。

また、特定非営利活動法人（2016 年 1 月 8 日認定：27 生都地第 1438 号）の認定の有効期間の更新のために東京都へ申請を行ない、審査を受けた。

1.1 総合的運用事業

(1) インフラ関係

- 例年問題となる送電線については 73 号柱までを、小山町も利用する可能性があったため 4 月に点検確認した。また、山頂については、登山者が撮影した写真を入手し状況を確認した。確認したところ、山頂火口部において地中送電ケーブルのむき出し箇所が 3 つあった。過去写真を元に、どの程度の経年変化か概算し、修繕の方法について検討した。
- 山頂事業が中止になったことを受けて、太郎坊及び御殿場の両観測地点の整備を行い、通年観測環境を増強した。御殿場観測点においては、基本インフラの整備、メンテナンス環境の構築を行った。
- 太郎坊観測点においてはインターネット回線の導入など利用者の利便を向上させた。さらに、一般財団法人電力中央研究所から、現在太郎坊に設置している観測コンテナを無償で譲り受けた。これらの活用のために天井の雨漏れ修理を行った。同様に、国立極地研究所から南極観測用として試験的に作られた観測タワーを継続利用のために太郎坊に設置した。

以上の整備には年賀寄附金配分事業助成金を使用した。

(2) 学術的・科学的事業

- 日本郵便株式会社の年賀寄附金配分事業に応募して採択された「日本の自然環境・生活環境を保全するための富士山頂における越境大気汚染物質の観測事業」として、当初の予定であった山頂での観測に代えて太郎坊での「マルチコプターを利用した富士山太郎坊における環境大気質の鉛直分布観測」を実施した。観測では、いわゆるドローンを用いて、地表面から離れた大気の状態を把握することを試みた。
- 富士山頂においては 2019 年夏の終わりの閉所時から越冬で無人観測を行っているものを継続した。国立環境研究所による二酸化炭素濃度測定が継続して行われ、2020 年の中国ロックダウン中の二酸化炭素放出量減少をとらえることに成功した。東京都立大学による火山性ガスのモニタリングを継続したが、2020 年夏季にバッテリー交換・測器入れ替えを想定したため、火山ガス計測は 2020 年 7 月までしか行えなかった。ただし、測定結果のリアルタイム配信システムは 2021 年 3 月時点でも稼働しており、今後の無人越冬観測推進への成果が得られた。
- 富士山麓の太郎坊観測サイトをより広範な研究で使えるように再整備し、これまで太郎坊で継続して行われてきた観測（東京理科大等によるエアロゾルの測定、早稲田大による雨水霧水の測定、山梨大によるミュオン測定）に加え、2020 年度には東京都立大による一酸化炭素・二酸化硫黄・オゾンの測定、帝京科学大による窒素酸化物の測定、東海大学・静岡県立大学による地磁気の測定を開始した。
- 御殿場市街地にある御殿場観測サイトを、夏期集中観測中の基地として利用するだけでなく観測拠点として利用できるように整備をした。気象データ、降雨、エアロゾル、二酸化炭素、大気汚染ガス、落雷位置標定、インフラソニック波等の測定を行った。

(3) 環境教育事業

- クラウドファンディングリターンの一つとして、富士山で測定された科学データを用いて小中高生が夏休みの自由研究で活用できるように、エクセルを活用した観測データを提供した。併せてサイエンスカフェを行い個別の密度の高いオンライン講義を行った。

1.2 富士山環境研究センター運営事業

- 科学研究費補助金の申請機関として稼働するために、さらに新たな規程等の整備を行った。1 名の特任研究員（小山朋子博士）が着任した。また、研究力の向上のため大学等で活躍した研究者の参画を促すため、新たなポストとしてシニア・リサーチ・フェローを導入した。原著論文数、学会発表数の増加がみられた。
- （一財）新技術振興渡辺記念会より昨年度受託した調査研究事業を引き続き実施するとと

もに、2020年の山頂活動が不可能だったため未実施の「ガス濃度マッピング」などの事業に関して、2021年度に行うことが同会で承認され、追加援助を得ることができた。

1.3 国際・国内シンポジウム開催事業

- 国内シンポジウム事業として、第14回成果報告会を3月28日に実行委員長・加藤俊吾理事、副委員長・鴨川仁専務理事／皆巳幸也理事によりオンラインで開催した。印刷物として講演予稿集を作成し、講演者とクラウドファンディングのリターンとして対象者160名に郵送して配布した。また、3月13日に開催された東京理科大学総合研究院大気科学研究部門主催の第5回成果報告会を後援した。

1.4 出版情報発信事業

- マスコミ等メディア（新聞、TV、ラジオ等）露出回数は2019年の22件に比べて55件と倍以上に増加し、2013年の過去最大61件に近づいた。特に日本テレビ「ヒルナンデス」などへの鴨川専務理事、静岡新聞をはじめとした、多くの地方紙などへの「コロナ禍による、富士山観測のピンチ」報道が目を引き、クラウドファンディングおよび寄付大幅増の成功につながった。また大河内副理事長のBS日テレなどでの「プラごみ問題の現実」などの放送が話題を呼んだ。また、長尾理事、藤井理事、鴨川専務理事による防災問題への提言などの連載記事などでも当会からの積極的な発信があった。
- 一般市民を対象として会の活動状況を「わかりやすく」情報発信するため、資料の整備、ホームページの改善等を継続して実施した。また、SNSに関して、ブログ、インスタグラムに、2020年6月からツイッターを加え、ホームページへのアクセス数を増加させた。また、2021年1月からメールマガジンの発行を始めた。
- Zoomなどの遠隔会議を併用して、歴史研究者、編集者、翻訳家など国内外の人文社会研究者も含めた「芙蓉日記の会」が活動範囲を広げた。特に野中家の資料の検討のみならず、測候所勤務者の記録などの収集にも努めた。

1.5 事業運営基盤の整備

- 事業運営を支える資金については、研究センター事業としての調査研究を昨年度の継続事業として(一財)新技術振興渡辺記念会より受託したほか、WNI 気象文化創造センターの研究助成（2件）と日本郵便株式会社の年賀寄附金配分事業から助成を受けた。
- 雇用形態の多様化に対応し、在宅勤務を可能とする規定の整備を行って勤務の弾力化をはかり、事務局の世代交代に伴い体制を大幅に刷新した。事務局体制を見直し強化するとともに、各専門委員会の責任の下で業務執行することを目標に業務執行体制の見直し検討に

入ったところであるが、実施にはまだ時間を要すると考えられる。

- コロナ禍のため、本 NPO でも Zoom を導入し、理事の参加がしやすい会議環境を整えた。その結果、週末や夜間の会議も開催が容易になったのみならず、会議の高い出席率を継続的に確保できるようになった。
- クラウドファンディングは**目標額** 3,000,000 円に対し、424 名の方からご支援をいただき、**6,121,100 円** (204%) を達成した。リターンとして、ご支援者の名前を掲載したポスターを太郎坊、御殿場基地に掲示した。また、富士山測候所バーチャル研究体験も行った。2022 年 8 月に郵送する暑中お見舞いハガキのスタンプ図柄を作成し、次年度以降へのリターンの準備を行った。コロナ禍のため、成果報告会へはオンライン参加の招待のみとなって対面での招待をすることができなかつたので、印刷された予稿集の冊子を郵送した。井出理事、鴨川専務理事、国立環境研究所の野村渉平博士が講演者となるサイエンスカフェを 8 回、開催した。
- 令和 3 年 1 月 27 日に宿利会長、三浦理事長、大河内副理事長、鴨川事務局長が、気象庁担当者と面会し、山頂ケーブル剥き出しへの対応について対談した。また、長期的な問題解決のため、山頂庁舎有効利用検討委員会を開催する方向で検討することとした。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	
(1)総合的 運用事業	A.インフラの構築と整備 ア. 太郎坊・御殿場基地観測に向けた設営事前準備と事前ミーティングの実施	(A) 6月30日 (B) オンライン (C) 10名	(D) 一般研究者・学生等 (E) 延 150名	
	イ. 太郎坊・御殿場基地観測関係者による事前ミーティングを開催し、利用ルール等について徹底をはかった。	(A) 7月5日 (B) オンライン (C) 14名	(D) 一般研究者・学生等 (E) 延 150名	
	B.科学的・学術的事業 ア. 観測研究の実施支援 (1)コロナ禍のため、夏期山頂観測は実施しなかった。すでに通年観測をしている3事業のみ実施された。	(A) 通年観測 (B) 富士山測候所 (C) 無人	(D)研究者・学生等 (E) 延 200名	
		(2)太郎坊観測所を強化し8事業が観測を実施し、延120名が参加。	(A) 7月下旬から(一部、通年観測) (B) 太郎坊観測所 (C) 延120名	(D)研究者・学生等 (E) 延100名
		(3)新たに御殿場基地を利用し、御殿場市内での観測を開始した(4事業、延60名が参加)。	(A) 8月上旬から(一部、通年観測) (B) 御殿場基地 (C) 延60名	(D)研究者・学生等 (E) 延100名
		(4)助成事業「雷から発生する窒素酸化物の通年地上観測」(WNI 気象文化創造センター「気象文化大賞」助成)を実施した。	(A) 8月中旬から(一部、通年観測) (B) 太郎坊観測所 (C) 延80名	(D)研究者・学生等 (E) 延200名
		(5)助成事業「地球温暖化が進行すると、大気汚染物質によって豪雨が増える？」(WNI 気象文化創造センター「アジア・太平洋地域」	(A) 8月上旬から(一部、通年観測) (B) 太郎坊観測所	(D)研究者・学生等 (E) 延200名

助成)を実施した。	(C) 延 100 名	
(6)助成事業「日本の自然環境・生活環境を保全するための富士山頂における越境大気汚染物質の観測事業」(年賀寄附金配分事業)を実施した。	(A) 11 月中旬から (B) 太郎坊観測所 (C) 延 120 名	(D)研究者・学生等 (E) 延 200 名
イ. データ検討会 今年の太郎坊・御殿場基地の観測結果を中心にデータ検討会を行った。	(A)12月26日 (B)Zoom オンライン (C)30名	(D)会員・一般 (E)30名
C.環境教育事業		
ア. クラウドファンディングのリターン 富士山で測定された科学データを用いて小中高生が夏休みの自由研究で活用できるように、エクセルを活用した観測データを提供した。	(A) 8月中旬 (B) ウェブサイト (C)20名	(D) クラウドファンディング支援者 (E) 424名
イ. 同じくリターン事業としてサイエンスカフェを zoom 経由で、主として高額寄付者を対象に行った。その内容は下記の通り。		
① 富士登山安全の最前線（鴨川専務理事）	(A) 12月5日、1月30日（時間を変えて2回） (B) ウェブサイト (C) 3名	(D) クラウドファンディング支援者 (E) 30名
② 火山・地震（鴨川専務理事）	(A) 1月30日 (B) ウェブサイト (C) 1名	(D) クラウドファンディング支援者 (E) 10名
③ 雷・大気電気（鴨川専務理事）	(A) 12月28日、1月30日 (B) ウェブサイト (C) 2名	(D) クラウドファンディング支援者 (E) 20名

	④ 地球温暖化と富士山（野村渉平会員）	(A) 10月26日 (B) ウェブサイト (C) 1名	(D) クラウドファンディング支援者 (E) 2名
	⑤高所医学（井出理事）	(A) 3月24日 (B) ウェブサイト (C) 1名	(D) クラウドファンディング支援者 (E) 3名
(2) 富士山環境研究センター事業	ア. 調査研究受託事業 昨年度受託した1年半にわたる「富士山噴火予知のためのSO ₂ およびH ₂ Sの通年観測システム構築と登山道の濃度マップの作成」(新技術振興渡辺記念会受託事業)の一部を実施。2021年度に延長して実施する許可を得ている。短期の特任研究員を採用した。研究論文が増加している。	(A) 通年 (B) 太郎坊, 大涌谷など (C) 10名	(D) 研究者・学生 (E) 10名
(3)国際・国内シンポジウム等開催事業	ア. 第14回成果報告会 「新型コロナ」自粛のため、オンラインで開催した。製本した予稿集160部を研究発表者とクラウドファンディングのリターンとして郵送などで配付した。	(A) 3月28日 (B) Zoom オンライン (C) 60名	(D) 研究者・学生・会員・一般 (E) 60名
	イ. 東京理科大学総合研究院大気科学研究部門主催第5回成果報告会の後援 東京理科大学同部門主催の第5回成果報告会を後援した。	(A) 3月13日 (B) Zoom オンライン (C) 40名	(D) 研究者・学生・ (E) 40名
(4) 出版・情報発信等広報事業	ア. HPによる情報発信 (1) インスタグラムでの写真投稿を継続した。 (2) ブログを継続し、情報の補完を行った。 (3) ツイッターをはじめた。 (4) メールマガジンの発行を始めた。	(A) 通年 (B) 事務局 (C) 延10名	(D) 会員・一般 (E) 不特定多数
	イ. 書籍、新聞、放送等による情報発信 メディア露出度を大幅に増大させた。	(A) 通年 (B) 各地	(D) 会員・一般 (E) 不特定多数

		(C)延 60 人	
ウ. 会報誌、パンフレット等出版物		(A)1 月 1 日	(D)会員・一般
(1)会報「芙蓉の新風」 Vol. 15 を発行した。		(B)事務局	(E)不特定多数
(2)パンフレット改訂版を発行した。		(C)5 名	
エ. 講演・プレゼン等			
① 招待講演（大河内副理事長； 日本地球惑星科学連合、「Recent research trends in airborne microplastics (AMPs)」		(A)7 月 12 日	(D)一般
		(B)ウェブサイト	(E)不特定多数
		(C)1 名	
② 講演：環境教育講演会 「気候変動に化学はどう向き合うのか？」大河内副理事長		(A)8 月 18 日	(D)一般
		(B)ウェブサイト	(E)不特定多数
		(C)1 名	
③ 講演：「世界遺産・富士山頂で地球大気環境を調べる」大気環境学会・酸性雨研究会、大河内副理事長		(A)10 月 12 日	(D)一般・大気環境学会・酸性雨研究会
		(B)ウェブサイト	(E)研究会参加者
		(C)1 名	
④ 講演：SONY 主催「ELTRES Days」鴨川専務理事、「ELTRES が切り開いた新時代の富士山火山噴火監視」		(A)11 月 27 日	(D)一般
		(B)ウェブサイト	(E)不特定多数
		(C)1 名	
⑤ 講演：富士山ビエンナーレ：土器屋理事「Anthropause（人類の活動の一時停止）におけるアーティストへの提案」		(A)11 月 22 日	(D)一般
		(B)ウェブサイト	(E)ビエンナーレ参加者
		(C)1 名	
⑥ 招待講演：2020 年度 Conductivity Anomaly 研究会 長尾理事		(A)1 月 7 日	(D)一般
		(B)ウェブサイト	(E)学会参加者
		(C)1 名	
⑦ 講演：長尾理事「富士山地磁気観測」		(A)2 月 13 日	(D)一般
		(B)ウェブサイト	(E)不特定多数
		(C)1 名	

	⑧ 講演：「静岡で知っておきたい地震と火山と防災」 長尾理事、鴨川専務理事	(A)2月28日 (B)ウェブサイト (C)2名	(D)一般 (E)不特定多数
--	---------------------------------------	--------------------------------	-------------------

決算報告書

第 16期

自 令和2年 4月 1日

至 令和3年 3月31日

(特非) 富士山測候所を活用する会

東京都千代田区麴町1-6-9DIK麴町ビル

活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

(特非) 富士山測候所を活用する会

自 令和2年 4月 1日 至 令和3年 3月31日

	特定非営利活動 に係る事業	その他の事業	合計
【経常収益】			
【受取会費】			
正会員受取会費	1,360,000		1,360,000
賛助会員受取会費	447,000		447,000
【受取寄付金】			
受取寄付金	18,486,594		18,486,594
【受取助成金等】			
受取助成金		9,425,000	9,425,000
【事業収益】			
自主事業収入		5,238,051	5,238,051
【その他収益】			
受取 利息		61	61
雑 収 益		2,945,082	2,945,082
経常収益 計	20,293,594	17,608,194	37,901,788
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
労務委託費		331,000	331,000
人件費計	0	331,000	331,000
(その他経費)			
業務委託費		3,053,750	3,053,750
印刷製本費(事業)		154,480	154,480
旅費交通費(事業)		593,581	593,581
運搬費(事業)		10,482	10,482
通信費(事業)		124,785	124,785
消耗品 費(事業)		1,901,347	1,901,347
修 繕 費(事業)		660,000	660,000
水道光熱費(事業)		825,472	825,472
送電線等保全費		616,000	616,000
地代 家賃(事業)		1,162,173	1,162,173
賃 借 料(事業)		132,000	132,000
減価償却費(事業)		628,423	628,423
科学・学術的事業費		652,043	652,043
諸 会 費(事業)		6,000	6,000
雑 費(事業)		277,305	277,305
その他経費計	0	10,797,841	10,797,841
事業費 計	0	11,128,841	11,128,841

活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

(特非) 富士山測候所を活用する会

自 令和2年 4月 1日 至 令和3年 3月31日

【管理費】

(人件費)

給料 手当	1,523,718	6,094,872	7,618,590
法定福利費	56,131	224,525	280,656
通勤費	19,944	79,776	99,720
人件費計	1,599,793	6,399,173	7,998,966

(その他経費)

旅費交通費	90,990	363,960	454,950
通信運搬費	74,751	299,006	373,757
消耗品 費	60,177	240,712	300,889
水道光熱費	18,624	74,498	93,122
地代 家賃	371,380	1,485,520	1,856,900
賃借料	5,280	21,120	26,400
保険料	9,992	39,968	49,960
諸会費	1,000	4,000	5,000
租税 公課	55,940	223,760	279,700
支払手数料	266,200	1,064,800	1,331,000
雑 費	103,809	415,238	519,047
その他経費計	1,058,143	4,232,582	5,290,725
管理費 計	2,657,936	10,631,755	13,289,691
経常費用 計	2,657,936	21,760,596	24,418,532
当期経常増減額	17,635,658	△ 4,152,402	13,483,256

【経常外収益】

経常外収益 計	0	0	0
---------	---	---	---

【経常外費用】

経常外費用 計	0	0	0
---------	---	---	---

税引前当期正味財産増減額	17,635,658	△ 4,152,402	13,483,256
法人税、住民税及び事業税		120,000	120,000
当期正味財産増減額	17,635,658	△ 4,272,402	13,363,256
前期繰越正味財産額	6,956,519	△ 2,957,081	3,999,438
次期繰越正味財産額	24,592,177	△ 7,229,483	17,362,694

貸借対照表

(特非) 富士山測候所を活用する会
全事業所

[税込] (単位: 円)
令和3年 3月31日 現在

		《資産の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
小口 現金	104,061		
普通 預金	11,248,053		
現金・預金 計	11,352,114		
(売上債権)			
未 収 金	2,398,857		
売上債権 計	2,398,857		
流動資産合計		13,750,971	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
構 築 物	4,200,000		
機械及び装置	1,895,000		
什器 備品	3,807,944		
減価償却累計額	△ 5,495,424		
有形固定資産 計	4,407,520		
(投資その他の資産)			
差入保証金	150,333		
敷 金	830,000		
投資その他の資産 計	980,333		
固定資産合計		5,387,853	
資産合計			19,138,824
		《負債の部》	
【流動負債】			
未 払 金	126,864		
前 受 金	10,000		
預 り 金	48,266		
未払法人税等	120,000		
未払消費税等	271,000		
流動負債合計		576,130	
【固定負債】			
修繕積立金	1,200,000		
固定負債合計		1,200,000	
負債合計			1,776,130
		《正味財産の部》	
前期繰越正味財産		3,999,438	
当期正味財産増減額		13,363,256	
正味財産合計			17,362,694
負債及び正味財産合計			19,138,824

財務諸表の注記

(特非) 富士山測候所を活用する会

令和3年 3月31日 現在

【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産 無し

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産：定額法

無形固定資産：定額法

(3) 引当金の計上基準 無し

貸倒引当金：

賞与引当金：

退職給付引当金：

(4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理 無し

(5) ボランティアによる役務の提供

(6) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

【事業費の内訳】

事業費の区分は以下の通りです。

[税込] (単位：円)

	特定非営利活動に係る事業				その他の事業	事業部門計	管理部門	合計
	総合運用事業	富士山環境研究センター	国際及び国内シンポジウム等	出版、情報発信等の広報				
I 経常収益								
1 受取会費						0	1,807,000	1,807,000
2 受取寄附金	18,486,594					18,486,594		18,486,594
3 受取助成金等	4,800,000	4,625,000				9,425,000		9,425,000
4 賛助金						0		0
5 事業収益	5,238,051					5,238,051		5,238,051
6 その他収益					2,945,143	2,945,143		2,945,143
経常収益計	28,524,645	4,625,000	0	0	2,945,143	36,094,788	1,807,000	37,901,788
II 経常費用								
1 人件費								
労務委託費	331,000					331,000		331,000
御殿場基地人件費								0
傷害保険料								0
人件費計	331,000	0	0	0	0	331,000	0	331,000
2 事業費								
業務委託費	842,750	2,211,000				3,053,750		3,053,750
印刷製本費(事業)	21,660			132,820		154,480		154,480
旅費交通費(事業)	164,210	429,371				593,581		593,581
運搬費(事業)	4,250	6,232				10,482		10,482
通信費(事業)	69,995	54,790				124,785		124,785
消耗品費(事業)	1,677,111	224,236				1,901,347		1,901,347
修繕費(事業)	0	660,000				660,000		660,000
水道光熱費(事業)	825,472					825,472		825,472
送電線等保全費	616,000					616,000		616,000
地代家賃(事業)	1,162,173					1,162,173		1,162,173
賃借料(事業)	132,000					132,000		132,000
減価償却費(事業)	628,423					628,423		628,423
科学・学術的事業費	652,043					652,043		652,043
諸会費(事業)	6,000					6,000		6,000
雑費(事業)	277,305					277,305		277,305
事業費計	7,079,392	3,585,629	0	132,820	0	10,797,841		10,797,841
合計	7,410,392	3,585,629	0	132,820	0	11,128,841		11,128,841

3 管理費									
(人件費)									
事務局人件費							7,618,590	7,618,590	
法定福利費							280,656	280,656	
通勤費							99,720	99,720	
人件費計	0	0	0	0	0	0	7,998,966	7,998,966	
旅費交通費							454,950	454,950	
通信運搬費							373,757	373,757	
消耗品費							300,889	300,889	
水道光熱費							186,244	186,244	
地代 家賃							1,763,778	1,763,778	
賃借料							16,408	16,408	
保険料							59,952	59,952	
諸会費							5,000	5,000	
租税公課							279,700	279,700	
支払手数料							1,331,000	1,331,000	
雑費							519,047	519,047	
その他経費計	0	0	0	0	0	0	5,290,725	5,290,725	
管理費計	0	0	0	0	0	0	13,289,691	13,289,691	
経常費用計	7,410,392	3,585,629	0	132,820	0	11,128,841	13,289,691	24,418,532	
当期経常増減額	21,114,253	1,039,371	0	△ 132,820	2,945,143	24,965,947	△ 11,482,691	13,483,256	

【施設の提供等の物的サービスの受入の内訳】

[税込] (単位: 円)

内容	金額	算定方法

【活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳】

[税込] (単位: 円)

内容	金額	算定方法

【使途等が制約された寄付等の内訳】

[税込] (単位: 円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
WNI気象文化創造センター				1,000,000	
WNI気象文化創造センター				2,000,000	
大成建設				700,000	
年賀寄付金配分事業				4,625,000	
合計				8,325,000	

【固定資産の増減内訳】

[税込] (単位: 円)

科目	期首取得価額	取得	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産					
構築物	4,200,000	0	2,786,280	128,520	2,657,760
機械装置	1,895,000	0	1,074,225	93,802	980,423
総合運用事業用什器備品	0	0	854,245	324,436	529,809
研究センター用什器備品	0	0	315,703	80,568	235,135
管理用什器備品	109,800	0	5,490	1,097	4,393
計	6,204,800	0	5,035,943	628,423	4,407,520
無形固定資産					
.....					
投資その他の資産					
保証金	150,333		150,333		150,333
敷金	230,000	450,000	680,000		680,000
計	380,333	450,000	830,333	0	830,333
合計					

【借入金の増減内訳】

[税込] (単位: 円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
合計				

【役員及びその近親者との取引の内容】

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

[税込] (単位: 円)

科目	財務諸表に計上された金額	内、役員との取引	内、近親者及び支配法人等との取引
(活動計算書)	18,486,594	1,000,000	
活動計算書計	18,486,594	1,000,000	

【その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項】

- ・ 事業費と管理費の按分方法
無し
- ・ その他の事業に係る資産の状況
無し

財 産 目 録

(特非) 富士山測候所を活用する会
全事業所

[税込] (単位: 円)
令和3年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

小口 現金	104,061	
普通 預金	11,248,053	
みずほ銀行	(5,246,777)	
三菱UFJ銀行	(109,434)	
ゆうちょ銀行	(43,743)	
ゆうちょ銀行/受払口	(5,848,099)	
現金・預金 計	<u>11,352,114</u>	

(売上債権)

未 収 金	2,398,857	
売上債権 計	<u>2,398,857</u>	
流動資産合計		13,750,971

【固定資産】

(有形固定資産)

構 築 物	4,200,000	
機械及び装置	1,895,000	
什器 備品	3,807,944	
減価償却累計額	<u>△ 5,495,424</u>	
有形固定資産 計	<u>4,407,520</u>	

(投資その他の資産)

差入保証金	150,333	
敷 金	830,000	
投資その他の資産 計	<u>980,333</u>	

固定資産合計 5,387,853

資産合計

19,138,824

《負債の部》

【流動負債】

未 払 金	126,864	
前 受 金	10,000	
預 り 金	48,266	
未払法人税等	120,000	
未払消費税等	271,000	
流動負債合計	<u>576,130</u>	

【固定負債】

修繕積立金	<u>1,200,000</u>	
-------	------------------	--

固定負債合計 1,200,000

負債合計

1,776,130

正味財産

17,362,694

損 益 計 算 書

(特非) 富士山測候所を活用する会
全事業所

[税込] (単位: 円)

自 令和2年 4月 1日 至 令和3年 3月31日

【経常収益】			
【受取会費】			
正会員受取会費	1,360,000		
賛助会員受取会費	447,000		
【受取寄付金】			
受取寄付金	18,486,594		
【受取助成金等】			
受取助成金	9,425,000		
【事業収益】			
自主事業収入	5,238,051		
【その他収益】			
受取 利息	61		
雑 収 益	2,945,082		
経常収益 計	2,945,082		37,901,788
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
労務委託費	331,000		
人件費計	331,000		
(その他経費)			
業務委託費	3,053,750		
印刷製本費(事業)	154,480		
旅費交通費(事業)	593,581		
運搬費(事業)	10,482		
通信費(事業)	124,785		
消耗品 費(事業)	1,901,347		
修 繕 費(事業)	660,000		
水道光熱費(事業)	825,472		
送電線等保全費	616,000		
地代 家賃(事業)	1,162,173		
賃 借 料(事業)	132,000		
減価償却費(事業)	628,423		
科学・学術的事業費	652,043		
諸 会 費(事業)	6,000		
雑 費(事業)	277,305		
その他経費計	10,797,841		
事業費 計	10,797,841		11,128,841
【管理費】			
(人件費)			
給料 手当	7,618,590		
法定福利費	280,656		
通 勤 費	99,720		
人件費計	7,998,966		
(その他経費)			
旅費交通費	454,950		
通信運搬費	373,757		
消耗品 費	300,889		
水道光熱費	186,244		
地代 家賃	1,763,778		
賃 借 料	16,408		
保 険 料	59,952		
諸 会 費	5,000		
租税 公課	279,700		
支払手数料	1,331,000		
雑 費	519,047		
	519,047		

損益計算書

(特非) 富士山測候所を活用する会
全事業所

[税込] (単位: 円)

自 令和2年 4月 1日 至 令和3年 3月31日

その他経費計	5,290,725	
管理費 計		13,289,691
経常費用 計		24,418,532
当期経常増減額		13,483,256
【経常外収益】		
経常外収益 計		0
【経常外費用】		
経常外費用 計		0
税引前当期正味財産増減額		13,483,256
法人税、住民税及び事業税		120,000
当期正味財産増減額		13,363,256
前期繰越正味財産額		3,999,438
次期繰越正味財産額		17,362,694

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会
理事長 三浦 和彦 殿

定款第 15 条第 5 項の規定に基づき、2020 年度の計算書類とその付属明細書の監査、並びに理事の業務執行状況について監査した結果、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

理事会及び各種委員会に出席し、会計帳簿その他会計に関する重要な文書を閲覧するとともに、理事等から職務の業務執行状況の報告を受け、また、随時説明を求めてきました。

2. 監査の結果

- (1) 財産目録、貸借対照表、活動計算書は、法人の財産及び収支の状況の全ての重要な点において適正に表示している。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく表示している。

令和 3 年 5 月 21 日

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

監 事 佐藤 政博

